

(九月のことば)

宗家

# 吟の指導研修は

## 気の交換である

北九州の恩師原精龍先生は常に、右の言葉と同時に本部に随行させて頂く時は、「さあ岳精先生に気をもらいに行こう」と仰った。

八月三十日夏期師範研修が形を変えて行われた。百二十数名と参加人員を制限しての開催だった。壇上に立った時、この「気の交換」の言葉が思いだされた。

コロナ禍のもと、この様に実行された事に対して有難く思うと同時に、参加者と精一杯の「気の交換」を行おうと思ったのだ。

また、全国へ届きますように！  
幹事長以下、最善の計画をし、当日は役員が注意と準備を怠りなくしての研修だった。

皆様に協力をお願いしたが、顔を合わせ声を出しあう欲いが自ずと湧いてきた。コロナは色々な事を根本的に考えさせて呉れるようだった。

当り前の事が当たり前でなくなっているが、有難い事や、大切な事が浮き彫りにされる。

全国の岳精会の皆様、どうぞやれる範囲でどうか頑張ってください。  
パソコンやスマートフォンにもなれましょう。

小さな教場でも、マスクがけで真剣に吟しましょう。

(令和二年九月)